

## 完了形と haben による結果状態構文

池 内 宣 夫\*

【要 旨】 現代ドイツ語において、haben+過去分詞は完了形であると同時に結果状態を表す構文でもある。この統語的・意味的に異なる両構文の境界はしかしながら、流動的である。つまり、完了形が行為の完了のみならず結果状態を表すことから、完了形としての解釈が優先する場合でも、潜在的に結果状態構文としての読みももちうる。それは多くの場合、文脈に依存した読みとして捉えられるものであるが、haben+過去分詞が seit 句を伴う場合には結果状態構文としての読みが前面化する。seit 句を伴う haben+過去分詞の事例を調査すると、限定的ではあるが比較的多くの事例が観察される。

【キーワード】 完了形 結果状態構文 静態

### 1 問題提起

haben+過去分詞の構文をもつ(1)の各文はそれぞれ統語的・意味的構造が異なる。

- (1) a. Das Pferd hat den Mann getreten.  
b. Das Pferd hat die Fesseln bandagiert.

(1. a)は現在完了形であり、(1. b)は現在形である。このことは、(2)で示すように過去時の副詞との共起の可能性からわかる。

- (2) a. Das Pferd hat gestern den Mann getreten.  
b. \*Das Pferd hat gestern die Fesseln bandagiert.

また、(1. a)では過去分詞 (getreten) は haben と動詞句を形成しているのに対し、(1. b)では過去分詞 (bandagiert) は目的語 (die Fesseln) の述語である。

さらに、(1. a)では主語 (das Pferd) は動詞 (treten) の動作主であるのに対し、(1. b)では主語は動詞 (bandagieren) の動作主ではない。このことは (3)より明らかである。

- (3) a. Das Pferd tritt den Mann.

---

平成 18 年 10 月 31 日受理

\*いけうち・のぶお 大分大学教育福祉科学部ドイツ語学教室

b. \*Das Pferd bandagiert die Fesseln.

(1. b)のような文は「静態・現在 (Stativ, Präsens)」(Latzel), 「静的構文 (statische Konstruktion)」(Leirbukt), 「所有・結果構文 (possessiv-resultativische Konstruktion)」(Ehrich) などと呼ばれる。ここでは「habenによる結果状態構文」(以下「結果状態構文」)と呼ぶことにする。

(1)では、現在完了形である(1. a)と結果状態構文である(1. b)との対立は統語的にも意味的にも明らかである。しかし、(4)は現在完了形と結果状態構文の両方の読みが可能であるはずである。

(4) a. Peter hat das Fenster geöffnet.

b. Peter hat das Fahrrad repariert.

(4)は、「ペーターは窓を開けた」「ペーターは自転車を修理した」という現在完了形としての読みも、「ペーターは窓を開けている(開けたままにしている)」「ペーターは自転車を修理済みである」という現在の状態表現の読みも可能であると思われる。

ドイツ語をはじめとするヨーロッパ諸言語の完了形が「所有の本動詞+目的語+過去分詞」から、本動詞が時制の助動詞化することにより発達したものであることは周知の通りである。<sup>1)</sup>つまり、haben+過去分詞は本来は現在の状態を表す形式であった。この歴史的発達は、英語やフランス語においては完了形と結果状態構文の形式的対立を残した。例えば(4. a)の二つの読みに対応する英語、フランス語はそれぞれ(5) (6)のとおりである。(a)が現在完了形、(b)が結果状態構文)

(5) a. Peter has opened the window.

b. Peter has the window opened.

(6) a. Pierre a ouvert la fenêtre.

b. Pierre a la fenêtre ouverte.

これに対してドイツ語では、上述の発達は形式的対立をもたらさなかった。それによって、一つの構文が二つの読みをもつ結果となった。

これまでの結果状態構文に関する研究においては、(1. b)のような結果状態構文であることが統語的にも意味的にも明らかな場合が中心であった。他方では、完了形に関しては、行為の完了とその結果的状态の両方を表すとされる。このように、(4)のような文を完了形とみなすのか、それとも完了形と結果状態構文の両面性をもつとみなすのかについては必ずしも明らかにされていないわけではない。

本稿では、(4)のような文の結果状態構文としての解釈の可能性を論証し、事例をもとに検証したい。

## 2 結果状態構文について

1章で、結果状態構文について指摘される特徴のいくつかを挙げたが、これらについてさらに詳しくみてゆくことにする。

### 2.1 結果状態構文の主語の意味格について

(1. b)では、主語 (das Pferd) は述語 (bandagieren) の動作主ではない。確かにこのことは、(1. b)が現在完了形ではないとする根拠となりうる。一方、(4)では現在完了形としての解釈が優先する。それは、主語が動作主の解釈を受けやすいからに他ならない。しかし、意味格とは述語と項との関係であり、そもそも述語が決まらなると意味格は決定できない。それゆえ、(4)が現在完了形と結果状態構文の両方の読みが可能であるという立場に立てば、前者の場合には述語動詞は *geöffnet haben; repariert haben* であるから主語は動作主、後者の場合には述語動詞は *haben* であるから主語は状態主 (Zustandsträger) となる。つまり、主語の意味格を現在完了形と結果状態構文の区別に用いることは循環論法的である。

ただし上でも述べたように、主語が動作主ではないことが明らかな場合は、この限りではない。その場合とは、(1. b)のように言語外的な知識に基づく場合もあれば、その都度の文脈や場面に基づく場合もある。後者の場合の例としては、例えば(7)が、息子のために自転車を修理してやった父親が息子に対して行った発話である場合である。

(7) So, jetzt hast du das Fahrrad repariert!

この場合、主語が動作主ではないという事実があるために、結果状態構文と解釈される。

上で、(4)では現在完了形と結果状態表現としての読みがあり、それに対応して主語が動作主でも状態主でもありうると考えた。そのどちらであるのかは多くの場合言語的には決定できず、文脈・発話場面との関連でのみ決定される。(7)の場合を参照のこと。) 文脈・発話場面への依存度が最も高いのは、主語の指示対象が同一である場合である。主語の指示対象が同一である場合とは、(4. a)を例にとれば、窓を開けたのも、窓を開けた状態にしているのも同じペーターである場合である。その場合、現在完了形と結果状態表現は時間的に連続する二つの事態と関連付けられることになる。(8)を参照のこと。

- (8) a. Peter<sub>i(t1)</sub> (動作主) hat das Fenster geöffnet.      現在完了形  
       b. Peter<sub>i(t2)</sub> (状態主) hat das Fenster geöffnet.      結果状態構文  
       (ただし: t<sub>1</sub>は t<sub>2</sub>より時間的に先行)

このような場合があるから、現在完了形としての解釈が優先する(4)のような文にあっても、現在完了形としての解釈が結果状態構文の解釈を排除するものではないことに留意すべきであろう。

結果状態構文の主語の意味格の問題は、結果状態構文を状態受動と関連付けて論じようとする研究にみられることは偶然ではない。なぜなら、状態受動においては、能動との関係、つまり項の対応が問題となるからである。例えば(1. b)は、状態受動文 (9. a)、さらにその能動文

(9. b)と関連付けられる。

(9) a. Dem Pferd sind die Fesseln bandagiert.

b. Jemand hat dem Pferd die Fesseln bandagiert.

ここから、結果状態構文の主語は能動文の与格（所有の与格，利害の与格を含む）に対応するとする説<sup>2)</sup>や、その意味格は「受益者 (Favorisierter)」<sup>3)</sup>であるという説が導かれる。

しかし、この説はあくまでも結果状態構文の状態受動，あるいはその能動文への還元によってのみ正当化されるものである。結果状態構文そのもののレベルでは、主語は状態主以外のなにものでもない。主語の指示対象が当該状態をもたらした行為にどのように関与していたかは関係のないことである。<sup>4)</sup>

## 2.2 結果状態構文の統語的・意味的特徴について

結果状態構文を統語的，意味的に記述・分類を行った研究としてLatzel (1977)が挙げられる。それによると，結果状態構文を形成する動詞は「変容の行為動詞 (transformative Aktionsverben)」であり，主格と対格の名詞句の関係については「所有または支配関係 (Besitz- oder Verfügungsverhältnis)」にある場合が最も多いとされる。<sup>5)</sup>

Latzelではまた，結果状態構文の主格と対格を占める名詞の意味クラスについても記述がなされている。それによると，主格名詞は「人」「動物」「生物の模造物」「物」であり，対格名詞はその「身体部位」「衣服」あるいは「支配関係にある物」であるとされる。主格名詞が「人」で，対格名詞が「身体部位」「衣服」「物」の例を(10)に挙げる。

(10) a. Otto hat die Haare ganz kurz geschnitten.

b. Die Frau hat ein zitronenfarbiges Tuch ... um den Kopf gewunden.

c. Er hat immer das Parteiabzeichen angesteckt.

(Latzel ebd. S.303)

なお，(10. a)や(10. b)のような，対格名詞句が主格名詞句の「身体部位」あるいは「衣服」である例は結果状態構文の典型例としてしばしば挙げられる。それは，これらの，身体部位への直接的，もしくは間接的（例えば「衣服を身体部位に」）な働きかけの結果としての状態を表す結果状態構文においては，行為表現である完了形との間に形式的な差異が認められることが多いからでもある。

Litvinov/Nedjalkov (1988:40)では，結果状態構文としての解釈をもたらすいくつかの形式的な特徴が挙げられている。まず，対応する行為表現において必須，もしくは高い確度で見れる与格の *sich* の不在が指摘される。(11)が結果状態構文，(12)がそれに対応する行為表現としての（過去）完了形である。

(11) a. ... hatten beide die Schuhe ausgezogen.

b. ... hatte Handschuhe über die Finger gezogen.

(12) a. ... hatten *sich* beide die Schuhe ausgezogen.

- b. ... hatte *sich* Handschuhe über die Finger gezogen.  
(Litvinov/Nedjalkov ebd. S.41)

Litvinov/Nedjalkov ではこの他に、所有冠詞と定冠詞の使用にみられる状態表現と行為表現の対立も指摘されている。(13)は結果状態構文、(14)がそれに対応する行為表現としての(過去)完了形である。

- (13) a. *Seinen* Kopf hatte er eingezogen.  
b. *Ihr* Haar hatte sie modisch aufgesteckt.  
(14) a. *Den* Kopf hatte er eingezogen.  
b. *Das* Haar hatte sie sich modisch aufgesteckt.  
(Litvinov/Nedjalkov ebd. S.43)

Litvinov/Nedjalkov の以上の指摘は確かに有意義ではあるが限定的である。なぜなら、(4)のような身体部位関連の表現以外では該当しないし、身体部位関連の表現であっても該当しない場合も多い。(15)ではまったく同形で現在完了形と結果状態構文が対立する。

- (15) a. Peter hat die Arme ausgestreckt.  
b. Die Versuchspersonen haben die Augen geschlossen.

なお、Litvinov/Nedjalkov では、コンテキストの機能についても述べられている。それによると、コンテキストが「同時性 (Gleichzeitigkeit)」を保障している場合、完了形は結果状態表現として「解釈し直される (uminterpretiert)」とする<sup>6)</sup>。その例として(16)が挙げられている。

- (16) Fischer lehnt am Ofen, und zwei Leute im Zivil blättern in Büchern, haben Schubladen geöffnet.

Litvinov/Nedjalkov には上例についての説明はないが、次のように解釈されよう。(16)では「フィッシャーがストーブによりかかっている」、「私服の二人が本のページをめくっている」という状況の描写が続いており、haben Schubladen geöffnet は後者の状況と関連付けられる。「引き出しを開けた」のは私服の二人が「ページをめくっている」本を取り出すためであろう。そうであれば、「引き出しを開けた」は「ページをめくっている」に時間的に先行するはずであるが、この配列ではその時間的流れに反する。よって、この二つの事態は同時性の解釈を受ける。すなわち、haben Schubladen geöffnet は「引き出しを開けた」という行為ではなく、「(本を取り出すために開けられたあと) 引き出しが開いたままになっている」という結果状態表現として解釈される。この指摘は、上で筆者が指摘した文脈、発話場面との関連で非常に興味深い。これについては以下で再び取り上げることにする。

## 2.3 結果状態構文と時の副詞句

1章でみたように、結果状態構文は、haben が述語動詞であるので、その時制が現在であれ

ば、過去時の副詞句とは適合しない。これに対して、現在完了形では出来事時 (Ereigniszeit) が過去にあるため、過去時の副詞とも結ばれる。また、結果状態構文は状態を表す形式であるため、継続の副詞句を取りうる。例えば (1. b) (10. a) (10. b) は (17) のような副詞句と適合する。

- (17) a. Das Pferd hat *seit 3 Tagen* die Fesseln bandagiert.  
 b. Otto hat schon *lange* die Haare ganz kurz geschnitten.  
 c. Die Frau hat *immer noch* ein zitronenfarbiges Tuch ... um den Kopf gewunden.

他方、完了形においては継続の副詞句は継続動詞の場合にのみ可能であるとされる。(18) (19) を見られたい。

- (18) a. Peter hat *lange* Klavier gespielt.  
 b. ?Peter hat *lange* das Fahrrad repariert.  
 c. \*Peter hat *lange* das Fenster geöffnet.  
 (19) a. Peter hat *seit 9 Uhr (3 Stunden)* Klavier gespielt.  
 b. ?Peter hat *seit 9 Uhr (3 Stunden)* das Fahrrad repariert.  
 c. \*Peter hat *seit 9 Uhr (3 Stunden)* das Fenster geöffnet.

spielen は継続動詞, reparieren と öffnen は非継続・結果動詞である。継続の副詞句は spielen においてのみ可能であり<sup>7)</sup>, öffnen では不可, reparieren では継続的な行為として解釈されれば可能となる<sup>8)</sup>。

しかし, (18. b) (18. c) (19. b) (19. c) を結果状態構文とみなせば (「ずっと前に (9 時から・3 時間前から) 自転車は修理済みである」「長い間 (9 時から・3 時間前から) 窓は開けられている」), 容認性の評価は違ったものとなる。その場合, 継続の副詞句は, 現在完了形の読みでは行為にかかっていたのに対し, 過去分詞が表す状態にかかることになる。この問題については以下で再び取り上げることにする。

### 3 完了形における結果状態

完了形においては, 非継続的な結果動詞の場合, 行為の完了 (Abschluss) とその結果的状态 (Folgezustand) の両方が表されるとされる。<sup>9)</sup> 例えば (4. b) の Peter hat das Fahrrad repariert では, 「修理が完了した」という意味とともに発話時現在における結果的状态「修理済みである」も表される。しかし, この 2 つの意味内容が対等であるわけではない。Helbig (1983:62) によれば, 前者が「直接的に言語化される (verbalisiert)」のに対し, 後者は間接的に含意されるに過ぎない。また, 後者の結果状態に関する意味内容は含意であるがために, これは言語的に否定されうる。

- (20) Peter hat das Fahrrad repariert. Aber jetzt ist es wieder kaputt.

しかし, 含意であるからといって, それが言語化される意味内容よりも重要度が低いとは限

らない。含意される意味内容のほうが言語化される意味内容よりも情報度が高いことはありうる。そのような場合とは、行為の完了よりも、その結果の状態に叙述の中心があるような文脈・発話場面においてである。それを(21)の、筆者が *Der Spiegel* より採取した例でみてみたい。

- (21) a. Heute ist es kalt, ein Linsensuppe-Tag. Bratwurststände vor der alten Börse in Frankfurt am Main ... und Lehmann steht bei Gisela, der Imbissfrau, man kennt sich, duzt sich, er hat den Mantelkragen hochgeschlagen, träufelt Essig in die Suppe. (Nr.45/2005 S.146)
- b. Jetzt fürchtet sie um ihre DVD-Sammlung, mehr als hundert Filme, die sie im Regal nach Kategorien sortiert hat ... (Nr.20/2005 S.61)
- c. In den Hoch-Zeiten der eigens auf Vertriebenenprobleme spezialisierten Bürokratie gibt es in der Bundesrepublik 598 Ausgleichsämter, die 25 000 Sachbearbeiter eingestellt haben. (Nr.51/2005 S.61)

(21) ではすべて歴史的現在形で語られる過去のある時点(基準時)での状況が描写されている。それぞれの文において、haben+過去分詞はその時点以前に完了した行為・出来事を表す。しかし、それぞれのコンテキストの中では、それらの行為・出来事ではなく、その完了によってもたらされた、その時点において存在する状態についての叙述であるとみなすのが自然であろう。例えば(21. a)では、er hat den Mantelkragen hochgeschlagen は「Lehmann が屋台の女主人である Gisela のそばに立って、スープに酢を入れている」という状況時における Lehmann の状態(「コートの襟を立てている」)であり、(21. b)では、sie hat die Filme nach Kategorien sortiert は「彼女が自分の DVD のコレクションのことを心配している」時点における映画の状態(「ジャンルごとに分類してある」)である。また、(21. c)では、(die) Ausgleichsämter haben 25 000 Sachbearbeiter eingestellt は強制退去者問題の最盛期における補償局の規模(「25000 人の事務職員を雇用している」)について述べられている。

なお、(22)は同じく *Der Spiegel* からの事例である。

- (22) Als Klinsmann und Bierhoff das Aufgebot für das Spiel gegen Italien verkünden, lädt der DFB die Presse in das Vereinsheim der SB Bronheim/Grün-Weiß. Es ist dieser typische Flachbau voller Wimpel und Pokale, mit Theke und mit Bildern vom Weihnachtsball an der Wand. Eine dicke Frau hat sich “Super Mami” auf ihre Trainingsjacke gestickt ... (Nr.11/2006 S.80)

上例中の Eine dicke Frau hat sich “Super Mami” auf ihre Trainingsjacke gestickt は与格の sich を伴っており、Litvinov/ Nedjalkov に従えば、行為表現に特有の特徴を有している。しかしこれは、壁に貼られた写真の一枚に写っている、ある太った女性のトレーニングウェアの様子についての描写(「トレーニングウェアに”Super Mami”と刺繍を施している」)であり、その女性が「刺繍をした」という行為の表現に叙述の中心があるわけではない。

これらの例における haben+過去分詞は、結果状態構文とみなされやすい(21. a)以外は、現在完了形とみるのが一般的であろう。しかし、それらはすでに結果状態構文としても解釈でき

る、あるいはそのようなものとして用いられているとも言える。

#### 4 結果状態構文としての seit 句を含む haben+過去分詞

3章では、完了形とされる haben+過去分詞が結果状態を表す場合があることをみた。ただし、それはあくまでも文脈・発話場面に依存した解釈として捉えられるものであった。しかし、結果状態表現であることが構造において顕在化する場合もある。それは、2章3節で取り上げた継続を表す副詞句が現れる場合である。ここでは、seit 句を伴う場合を取り上げる。

##### 4.1 seit 句を含む haben+過去分詞の問題性

議論のために、(19. b) (19. c)を簡略化して(23)として再掲する。

- (23) a. Peter hat *seit 3 Stunden* das Fahrrad repariert.  
 b. Peter hat *seit 3 Stunden* das Fenster geöffnet.

2章3節で、(23)について結果状態構文としての読みの可能性を指摘した。それは、(23)のような非継続動詞とは本来、seit は適合しないので、(23)が正文ならば、seit 句は動詞の表す行為にかかっているのではなく、その過去分詞が表す結果状態にかかっているはずと考えられるからである。

しかし、(23)のような seit 句を含む haben+過去分詞の容認性に関しては、研究者の間でも評価が分かれるようである。例えば Stechow (1999:9) は「私には容易には容認できないが、容認する人もいる」と述べている。一方、Ehrich (1992:79) は、完了形においては seit 句の制約は(過去形よりも)少ないとして(24)の例を挙げている。

- (24) a. Hans hat den Brief *seit ein paar Tagen* geschrieben.  
 b. Maria hat das Buch *seit fünf Wochen* zur Bibliothek zurückgebracht.  
 c. Wir haben das Haus *seit einem Jahr* verkauft.  
 (Ehrich ebd. S.79)

(24)のような seit 句を含む haben+過去分詞が実際に可能であるのか、またどれほど用いられるのかは興味ある問題である。なぜなら、もしそれが可能であり、多く用いられることが示されれば、(4)のような seit 句を含まない文も潜在的に結果状態構文としての読みをもちうると思える有力な根拠となりうるからである。

##### 4.2 seit 句を含む haben+過去分詞の検索結果と考察

筆者は、seit 句を含む haben+過去分詞についてインターネットを用いて事例調査を行った。調査は、結果状態を表しやすい非継続・結果動詞を、コンピューター関連の動詞を中心に任意抽出して行った。

なお、インターネットを利用したことにより、そこで収集されるデータが必ずしも「規範的」なドイツ語ではないことは斟酌する必要がある。しかし、上でも述べたように、seit 句の間

題はまさに規範そのものと関係する現象であり、言語使用の実態を観察することは意味のあることと思われる。

なお、haben+過去分詞に seit 句が現れている場合、必ずしもそれが状態にかかるものではない、すなわち結果状態構文として解釈されるわけではないことを、(25)の例でみておきたい。

- (25) a. Peter hat *seit 10 Jahren* Fahrräder repariert.  
 b. Peter hat *seit 10 Jahren* kein Fahrrad mehr repariert.  
 c. Peter hat *seit 10 Jahren* zum ersten Mal ein Fahrrad repariert.

(25. a)では反復的な行為が表され、seit 10 Jahren はその行為が継続した期間を表している（「10年来自転車の修理をしてきた」）。つまり seit 句は行為にかかるものである。(25. b) (25. c)では seit 10 Jahren によって期間が設定され、その中において修理するという行為を「おこなわなかった」(25. b)、「初めておこなった」(25. c)という内容が表されており<sup>10)</sup>、やはり seit 句は行為にかかっている。

検索結果は資料のとおりである。かなり多く観察されることがわかる。<sup>11)</sup> 議論のために、検索により得られた事例のいくつかを(26)として挙げる。

- (26) a. Das Speichern des Journals habe ich schon *seit Jahren* aktiviert ...  
 b. Die Systemwiederherstellung habe ich *seit Tagen* ausgeschaltet.  
 c. Die CD habe ich *seit Wochen* bestellt, aber immer noch nicht erhalten ...  
 d. Ich habe die Ware bereits *seit längerem* bezahlt, aber noch nichts erhalten.  
 e. Ich habe das Service Pack *seit Jahren* installiert und noch nie Probleme gehabt.  
 f. Das Rezept habe ich schon *seit längerer Zeit* gespeichert, aber noch nie gekocht.  
 g. Wir haben unsere Wohnungen hier schon *seit vielen Jahren* gemietet ...  
 h. Die Tasche habe ich auch schon *seit einigen Tagen* gepackt.

(26)を含め資料に挙げたすべての検索事例は行為表現（「～し続けていた」）としては解釈できず、結果状態表現であることは明らかである。また、主語の指示対象については、先行した行為の利害者である可能性は完全には排除できないが、文脈を考慮した限りでは、動作主と同一とする解釈が自然であると判断される。<sup>12)</sup>

これらの事例を観察すると、いくつかの特徴が指摘できる。まず、seit 句と対格名詞の語順に関しては、それらが中域（すなわち haben と過去分詞の間）に現れている事例の大多数において、「対格名詞+seit 句」の語順であることが確認できる（(26. d) (26. e) (26. g)を参照）。<sup>13)</sup> 行為表現においては「seit 句+対格名詞」が無標の語順である（例：Peter repariert *seit 3 Stunden* das Fahrrad.）ことを考えれば、検索事例の多くにおいてこの語順の逆転が確認されることは、これらが結果状態表現であることとの関連をうかがわせる。上で、結果状態構文では seit 句は状態にかかるとした。その状態を表しているのは、むしろ過去分詞である。ならば、それにかかる seit 句はこの過去分詞の直前に置かれるのが最もふさわしい。つまり、結果状態構文においては、目的語の後域が述語の位置であるため、述語すなわち過去分詞と関連性の深い要素はこの後域内に配される。それが上記の語順に現れていると考えられる。

また、(26. c) (26. d) (26. e)を見られたい。これらの事例においては、結果状態構文と解釈される文にもう一つの過去分詞よりなる文節が接続されている。しかし、どのような内容でも接続できるわけではない。例えば、(26. c) (26. e)を書き換えた(27)は非文である。

- (27) a. \*Die CD habe ich *seit Wochen* bestellt und gestern erhalten.  
 b. \*Ich habe das Service Pack *seit Jahren* installiert und gegen die neue Version ausgetauscht.

それはもちろん、(27)においては後文の内容が前文の内容と矛盾するからである。つまり、「昨日受け取った」「新しいバージョンに変更した」のであれば、それぞれの前文を結果状態構文とした場合の内容（「CDを注文してある」「サービスパックをインストールしてある」）と矛盾するからである。<sup>14)</sup> このことをさらに検証しておきたい。(26. c) (26. e)と(27)を書き換えた(28) (29)を見られたい。

- (28) a. Die CD habe ich bestellt, aber immer noch nicht erhalten  
 b. Ich habe das Service Pack installiert und noch nie Probleme gehabt.  
 (29) a. Die CD habe ich bestellt und gestern erhalten.  
 b. Ich habe das Service Pack installiert und gegen die neue Version ausgetauscht.

(28) (29)では前文から *seit* 句を取り去ってある。これらを現在完了形とみなすとしよう。(28)では(26. c) (26. e)と事情は同じである。後文の内容は前文の現在完了形により表される行為にも現在の状態にも矛盾しない。しかし(29)は(27)とは違い容認可能である。それは、(29)においては、後文の内容により、前文が行為表現として解釈されるからである。このように、現在完了形が行為の完了と結果状態の両方を表すのに対し、(27)の前文は現在の状態表現のみに限定されている。これは、2章3節で指摘したように、結果状態構文の特性である。

ところで、(26. c) (26. d) (26. e)、さらに(26. f)では一つの *haben* を介して二つの文が並列されている。このことは、前文を結果状態構文とみなすのなら、*haben* が本動詞であると同時に完了の助動詞として用いられているとみなさざるを得なくする。どの程度、本動詞と助動詞の共用が可能であるかは定かではないが、少なくとも結果状態構文の典型例として挙げられるような文にあっては、現在完了形との *haben* の共有は起こらない。例えば(10. a) (10. c)を(30)のように続けることはできない。

- (30) a. \*Otto hat die Haare ganz kurz geschnitten und immer sportlich gewirkt.  
 b. \*Er hat immer das Parteiabzeichen angesteckt und nie abgenommen.

*haben* の共有の現象は、*seit* 句を含む *haben*+過去分詞が現在完了形として少なくとも「意識されている」ことをうかがわせる。その場合、これらの文は「主語が動詞によって表される行為を行い、主語にとってその結果状態が現在なお存続している」という意味内容をもつと考えることができるかもしれない。しかし、この問題についてはなお考察の余地がある。

## 5 結論

結果状態構文を扱う研究においては、これが同形の完了形から区別されうるものという暗黙の了解があるように思われる。しかし、完了形は行為の完了とともに結果状態をも含意する形式であることから、結果状態構文と完了形の境界を画定することは必ずしも容易ではない。そのため、完了形であるか結果状態構文であるかは文脈・発話場面との関連によって初めて決定できる場合も少なくはない。

しかし、非継続動詞からなる haben+過去分詞が seit 句を伴う場合、それは結果状態構文とみなしうる。この seit 句を伴う haben+過去分詞については、研究者の間でも容認性の評価は分かれるが、インターネットを用いた事例調査の結果ではかなり多くの事例が認められる。

しかし、seit 句を伴う haben+過去分詞の事例を検討してみると、必ずしも結果状態のみが表されているのではなく、それに先行する行為への関連付けもある程度認められる。

以上のことから、完了形と結果状態表現が形式的に区別されないドイツ語においては、ドイツ語話者の差異の意識も明確ではないと言えるかもしれない。

なお、この問題との関連において、「二重完了形 (Doppelperfekt)」の存在は興味深い。二重完了形とは haben+過去分詞+gehabt よりなる形式 (例: Peter hat das Fahrrad repariert gehabt.) である。二重完了形は方言的・口語的語法とされるが、その意味機能の一つに状態表現であることを明示化するというものがある。例えば, Peter hatte das Fahrrad repariert. では、行為表現としての過去完了形と過去の結果状態表現との間で曖昧であるが、二重完了形 (Peter hat das Fahrrad repariert gehabt.) を用いることで、結果状態表現であることを明確にすることができる。<sup>15)</sup> 二重完了形の存在は、ドイツ語において行為表現と状態表現の対立を言語化しようとする動きとして興味ある現象である。

### 資料：検索結果

(それぞれ一例のみを挙げる。引用は原文のまま)

<abbestellen>

Die DBZ war mal sehr interessant. Ich habe sie seit ein paar Jahren abbestellt und die Jahrgänge davor entsorgt.

<abonnieren>

Den "Stern" habe ich seit 1984 abonniert und liebe ihn nicht immer, aber meistens.

<aktivieren>

Das Speichern des Journals habe ich schon seit Jahren aktiviert – man weiß nämlich nie, wann man es mal brauchen kann/muss.

<ändern>

Auch Hamas hat ihre Strategie seit einiger Zeit geändert.

<anschießen>

Also, ich habe den 940NPivot nun seit einigen Minuten angeschlossen und muss sagen, daß es ein absoluter guter Monitor ist ...

<ausschalten>

Die Systemwiederherstellung habe ich seit Tagen ausgeschaltet. Den Internet-Temp und den

Temp Ordner habe ich auch im abgesicherten Modus gelöscht.

<bestellen>

Die CD habe ich seit Wochen bestellt, aber immer noch nicht erhalten ...

<bezahlen>

Ich habe die Ware bereits seit längerem bezahlt, aber noch nichts erhalten.

<buchen>

... ich habe jetzt seit eineinhalb Wochen Urlaub gebucht und der beginnt Montag morgen.

<einbauen>

Ich habe die Phatbox seit 2 Wochen eingebaut und an meinem concert II-Radio angeschlossen.

<einstellen>

Die großen Betriebe ... haben ihre Lehrlinge bereits seit Monaten eingestellt.

<eröffnen>

Unter http:... habe ich seit gestern ein Forum eröffnet, wo alle Besucher entsprechende Beiträge listen können, um auch von anderen Leuten Infos zu bekommen.

<installieren>

Ich habe das Service Pack seit Jahren installiert und noch nie Probleme gehabt.

<kaufen>

Ich habe diese Cd schon seit längerem gekauft aber ich habe sie immer noch nicht satt gehört.

<kündigen>

Hatte ich vormals diese Produkte sogar bei T-Online in den neuesten Versionen abonniert, so habe ich das Abo seit dem Zeitpunkt wieder gekündigt ...

<löschen>

Habe unter E-mail das Häckchen gesetzt. Nun hatte ich viele E-mails wieder, die ich bereits schon seit längerem gelöscht hatte ...?!

<mieten>

Wir haben unsere Wohnungen hier schon seit vielen Jahren gemietet und es ist gar keine im Haus frei, wo sich Human Life einmieten hätte können.

<packen>

Die Tasche habe ich auch schon seit einigen Tagen gepackt. Jetzt ist es wirklich nur noch eine Warterei.

<renovieren>

Wir haben die Wohnungen seit kurzem renoviert und gut eingerichtet.

<schließen>

ich sollte vielleicht langsam das Fenster schließen, sonst denken meine Nachbarn sonst was von mir ... ich habe die Fenster seit Monaten geschlossen ...

<schreiben>

Ein User in meinem Forum hat schon seit längerem folgendes geschrieben: ...

<speichern>

Das Rezept habe ich schon seit längerer Zeit gespeichert, aber noch nie gekocht.

<vermieten>

Ich bin Ende 1999 beruflich bedingt umgezogen und habe meine Eigentumswohnung seit Januar 2000 vermietet.

<wechseln>

Seitdem sind 4 Wochen vergangen, ich habe meinen Anbieter seit langem gewechselt ...

## 註

- 1) ドイツ語における完了形の発達については、嶋崎 (1992) を参照。
- 2) Leirbukt (1981:132f.) 参照。ただし、Leirbukt は結果状態構文 (Leirbukt の *statische Konstruktion*) を受動として分析する限界も指摘している。
- 3) Helbig (1983:62f.) 参照。
- 4) 同様の見解は Latzel (1977:297), Leirbukt (1981:144) にもみられる。
- 5) Latzel (1977:301) 参照。
- 6) Litvinov/Nedjalkov (1988:43) 参照。
- 7) 現在完了形における *seit* については多くの問題点がある。(19. a)については「9時から(3時間前から)ピアノを弾いていた」と解釈される。つまり、9時(3時間前)に始まった「ピアノを弾く」という行為が、基準時 (Referenzzeit) である発話時現在 (Sprechzeit) において終了している、と解される。これについては Stechow (1999:5) を参照。
- 8) その場合、(18. b) (19. b)の読みはそれぞれ「長い時間自転車を修理していた」「9時から(3時間前から)自転車を修理していた」となる。
- 9) Ehrich (1992:91ff.), Vater (1994:67ff.) 参照。
- 10) いわゆる *existential* な読みである。
- 11) もちろんヒットしなかった動詞もある。しかし、コーパス分析の常として、ヒットしなかったのは偶然であるとも考えられるわけであり、ヒットしなかったからといって、ある形式が存在する可能性を排除する理由にはならない。
- 12) ただし、それぞれの陳述においては、2章1節で述べたように、主語の指示対象がどのように行為に関与していたのかは無関係である。
- 13) 資料に挙げた事例だけではなく、検索においてヒットした事例の多数についてそのような傾向が観察された。
- 14) なお、(26. c) (26. e)においては、後文の現在完了形は事態の非生起「まだ受け取っていない」「問題が起こったことがない」を表しており、前文の内容と矛盾しない。
- 15) Breuer/Dorow (1996:78f.) は、標準ドイツ語においては二重完了形に存在理由があるとすれば、結果表現においてである、とする。

## 参考文献

- Breuer, Christoph/Dorow, Ralf (1996): *Deutsche Tempora der Vorvergangenheit*. Trier.
- Ehrich, Veronika (1992): *Hier und Jetzt*. Tübingen.
- Helbig, Gerhard (1983): *Studien zur deutschen Syntax*. Leipzig.
- Latzel, Sigbert (1977): *haben+Partizip und ähnliche Verbindungen*. In: Deutsche Sprache 4.
- Leirbukt, Oddleif (1981): *"Passivähnliche" Konstruktionen mit haben+Partizip II im heutigen Deutsch*. In: Deutsche Sprache 9.
- Litvinov, Viktor/Nedjalkov, Vladimir (1988): *Resultativkonstruktionen im Deutschen*. Tübingen.
- Stechow, Arnim von (1999): *German Participles II in Distributed Morphology*. Erscheint in:

Higginbotham, J. & Giorgi, A. & F. Pianesi (Eds.), *Proceedings of the Bergamo Conference on Tense and Mood Selection*. Oxford University Press  
 (<http://www2.sfs.uni-tuebingen.de/~arnim10/Aufsaeetze/German-Participles-II.pdf>)  
 Vater, Heinz (1994): *Einführung in die Zeit-Linguistik*. Hürth-Efferen.

嶋崎啓 (1992) 『ドイツ語完了形の成立と歴史的变化』「九州ドイツ文学」6

## Das Perfekt und die Resultativkonstruktion mit *haben*

IKEUCHI, Nobuo

### Abstract

Die beiden "*haben*+Partizip II"-Konstruktionen *Das Pferd hat den Mann getreten* und *Das Pferd hat die Fesseln bandagiert* sind syntaktisch und semantisch verschieden. Bei der ersteren handelt es sich um Perfekt und bei der letzteren um Resultativkonstruktion. Aber die Grenze zwischen den beiden Konstruktionen ist fließend, weil bei der Resultativkonstruktion die Rolle des Subjektreferenten in der zeitlich vorausgegangenen Handlung unerheblich ist (etwa entgegen der Helbig'schen Auffassung des Subjekts als "Favorisierter") und das Perfekt dem Wesen nach sowohl den Abschluss der Handlung als auch den daraus resultierenden Nachzustand bezeichnen kann. Die resultativische Lesart eines Perfektsatzes basiert in den meisten Fällen auf dem jeweiligen Kontext. Sie kann aber dann in den Vordergrund treten, wenn durch ein Zeitertstreckungsadverb wie "seit" auf den Zustand Bezug genommen wird (*Peter hat das Fahrrad seit 3 Tagen repariert*). Hierfür lassen sich zahlreiche Internet-Belege angeben.

**[Key words]** Perfekt, Resultativkonstruktion, Stativ